

インターバンクの声（2014 年 8 月 21 日）

東京時間の午前 3 時に公開された 7 月 29 - 30 日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨をライブベースで確認したのは、各金融機関のナイト担当のメンバーや、かなり大きめのポジションを抱えた個人投資家の方々がほとんどだったはずだ。多くの市場参加者は、朝起きてテレビやネットなどで確認したニューヨーク市場の株価や為替市場の終値に驚いたに違いない。昨日の午後にあっけなく 103 円台に乗せたので、中盤近く辺りまでの続伸は想定した人も多かったと思うが、104 円に届きそうなレベルにまで来たのは意外だった。もっとも、これがジャクソンホールでのイエレン議長がタカ派的な講演を行った後であればシナリオ通りでもあったわけだが、まさか議事要旨公開後のタイミングは、見事に隙を突かれた格好だ。議事録の内容がタカ派寄りだったことが、ドル買いの大きな要因となったようだが、前日の雇用関連以外の部分で懸念が残っていた住宅関連指標が思いのほか強い内容となっていたことが大きく影響したのかも知れない。昨夜、帰宅前にドルのロングポジションをスクエアにしてしまった腹立たしさを抑えたいが、日中は 103.90 を超えればドル買い、70 を割ればドル売りで攻めてみたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。